

## 第6回 長安口ダム改造事業費等監理委員会

### (4) 第5回委員会での主な意見と取り組み

平成25年7月

那賀川河川事務所

## 【第5回委員会（平成24年度）における主な意見と取り組み】

前回の委員会でいただいた以下の主な3つの意見に対する、当事務所の取り組みについてご紹介します。

(1) 今後想定する不確定要因を検討したリスク管理を踏まえて、トータルな事業費・工程管理に努めること。

○施工方法の見直しによる適切な工程の管理に関する取り組み

(2) コスト縮減対策により、どれだけの事業費縮減につながるか全体的な見通しを示すこと。

○個別のコスト縮減対策を総括した全体縮減額の提示

(3) 親水や景観など、観光面に役立てた取り組みについても考えてはどうか。

○長安口ダム水源地域ビジョンに向けた取り組み

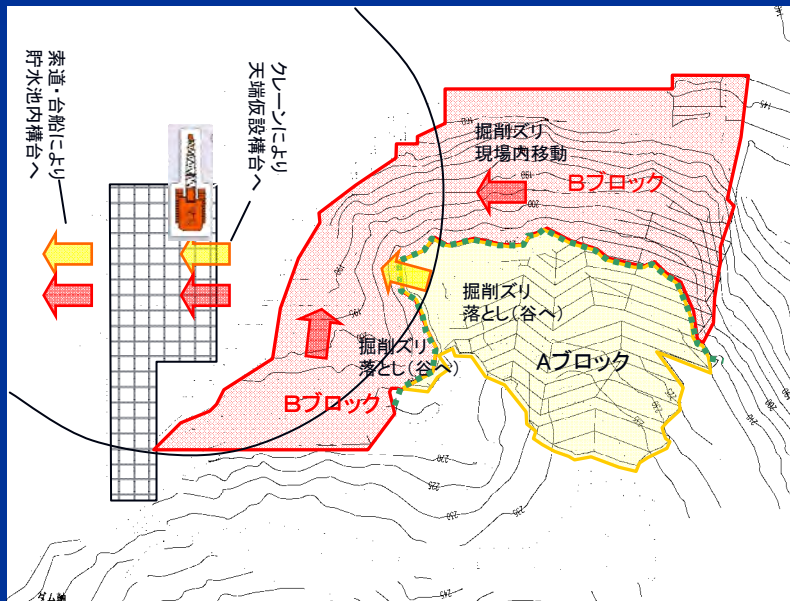
# (1) 施工方法の見直しによる適切な工程の管理に関する取り組み

洪水吐新設の施工に当たり、平成26年度末までに地山掘削を完了する必要があるが、不確定要因により施工開始が遅れることを想定し、全体工程に影響しない施工順序に見直し。

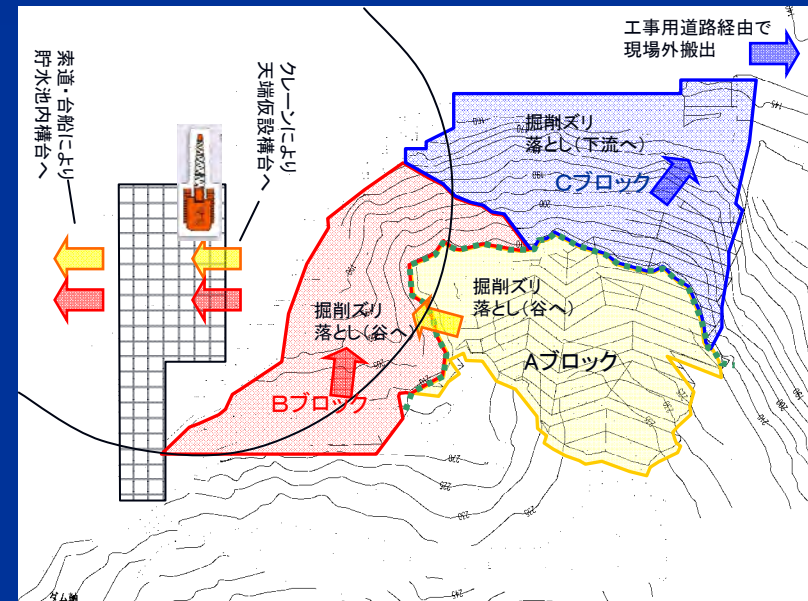
当初計画：掘削ズリ全量を、ダム天端構台のクローラークレーン及び索道・台船にて現場外に搬出する計画。  
(必要工期18ヶ月)

変更計画：掘削箇所を3分割、洪水吐新設に支障となる部分(A+Bブロック)を先行して掘削し、残り(Cブロック)は後日掘削する計画。(先行箇所の必要工期12ヶ月) ※地山掘削に必要な事業費・工期は変更なし

当初計画(必要工期18ヶ月)



変更計画(先行箇所の必要工期12ヶ月)



施工方法の見直し

改造事業全体工程

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
仮設構台設置	[Progress bar from H24 to H26]						
予備ゲート設置	[Progress bar from H24 to H28]						
洪水吐新設	[Progress bar from H26 to H30]						
地山掘削(導流部)	[Progress bar from H26 to H27]						
減勢工改造	[Progress bar from H26 to H30]						
工事用道路	[Progress bar from H26 to H30]						
選択取水設備設置	[Progress bar from H27 to H30]						

## (2) 個別のコスト縮減結果を総括した全体縮減額の提示

これまでに実施した各コスト縮減の取り組み内容について、縮減額は下記のとおり。

項目	内容	縮減額	縮減率 (合理化額 ÷従来額)	摘要
クレストゲート形状の合理化※	放流時の水面形状を考慮してゲートを固定部と可動部の組み合わせとし、可動ゲート扉体及び開閉装置の縮小、操作塔の高さを抑えることでコスト縮減を図った。	503,000千円	81%	第4回・第5回委員会にて報告
予備ゲート構造の合理化※	標準的なスライドゲートでは、ダム上流面の傾斜により仮締切やピアの規模が大きくなるため、傾斜に応じた開閉が可能な予備ゲート構造とすることで、これらのコスト縮減を図った。	460,000千円	89%	第4回・第5回委員会にて報告
貯水池内仮設構台のコスト縮減	使用鋼材のうち、中古品の流通が確認できた部分を積極的に利用し、材料費のコスト縮減を図った。	50,000千円	86%	第5回委員会にて報告
導流壁形状の合理化	導流水路部の側壁に波返しとしてデフレクターを設置することで、壁高を低く抑え、コンクリート打設量の縮減を図った。	34,000千円	66%	第5回委員会にて報告
基礎掘削(導流壁部)形状の工夫	法面保護の施工単価は増加するものの、地山の地質状況等を踏まえて法面勾配を急勾配とすることで、掘削量を約2割、法面保護面積を4割縮減して、コスト縮減を図った。	45,000千円	79%	第5回委員会にて報告
減勢工構造の合理化※	減勢工背面にCSGを採用することにより、側壁部のコンクリート量を大幅に削減。	1,148,000千円	52%	第5回委員会にて報告
新設主ゲートに使用する部材の見直し	新設主ゲートに使用する部材のうち、維持管理が困難なローラ部分について、腐食が進みにくいステンレス製とすることで、維持管理にかかるコスト縮減を図った。	80,600千円	46%	新規報告
計		2,320,600千円		

※印は全体事業費（470億円）算定時に反映済みの項目である。



# (3) 長安ロダム水源地域ビジョン策定に向けた取り組み

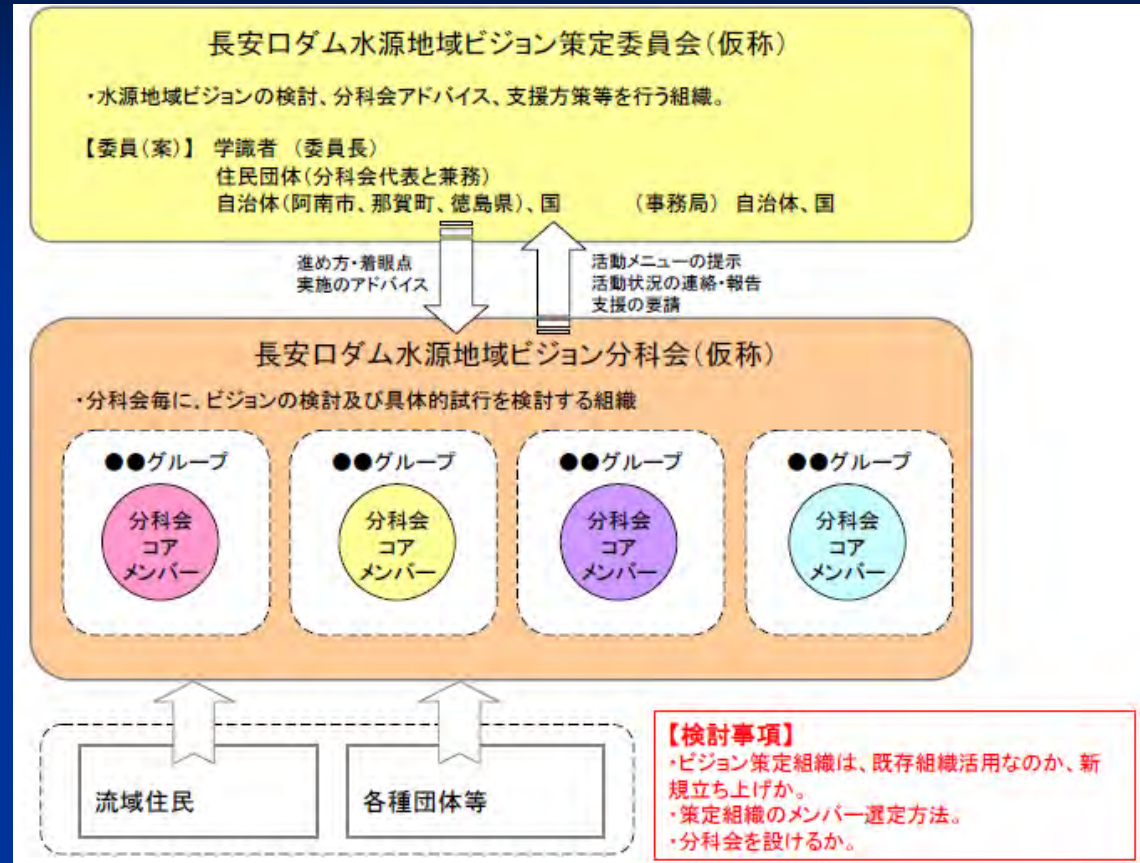
阿南市・那賀町等流域の自治体と、住民団体、ダム管理者である国土交通省が連携して「水源地域ビジョン」を策定し、観光面にも役立てた取り組みを進める。

## 水源地域ビジョンとは

ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とする、水源地域活性化のための行動計画。

## ビジョン策定の進め方

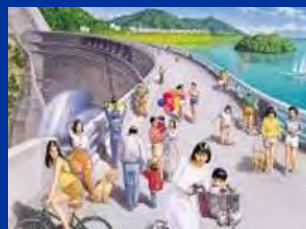
「ビジョン分科会」において個別の具体的な施行メニューを検討し、「ビジョン策定委員会」に提示する。策定委員会では、各分科会の意見を統合してビジョンの基本方針等を策定する。



「水源地域ビジョン」を策定後はそれぞれのメニューに基づき、ビジョンの推進を図る。



①親水空間の整備



②ダムの開放



③ダム湖の利活用促進



④体験学習



⑤上下流交流



⑥地場産業の育成